

感 染 症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第31週)

(令和8年7月27日～令和8年8月2日)

令和8年8月6日

定点報告(上段:定点当たり／下段:報告数)、全数報告(報告数)		2026年					2025年	2024年
区 分	疾 病 名	28週	29週	30週	31週	合計	合計	合計
定点報告	インフルエンザ	－	0.67	－	－	－	－	－
		0	2	0	0	584	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	3.33	1.67	0.33	－	－	－	－
		10	5	1	0	160	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	31	156	309
	咽頭結膜熱	0.50	－	－	－	－	－	－
		1	0	0	0	9	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	2.00	2.50	1.00	－	－	－
		1	4	5	2	107	243	657
	感染性胃腸炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	124	430	610
	水痘	－	－	－	2.00	－	－	－
		0	0	0	4	8	10	6
	手足口病	5	2.50	7.50	15.50	－	－	－
		10	5	15	31	67	15	952
	伝染性紅斑	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	0.50	－	－	0.50	－	－	－
		1	0	0	1	18	59	182
	ヘルパンギーナ	－	－	1.00	2.00	－	－	－
		0	0	2	4	7	4	19
	流行性耳下腺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1	10	13
	急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1	2	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	3	16	1
	クラミジア肺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	－	1.00	－	1.00	－	－	－
		0	1	0	1	17	42	16
	無菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	7	39	19
	新型コロナウイルス感染症(入院)	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	22	56	120
	急性呼吸器感染症(ARI)	57.33	48.33	42.67	56.33	－	－	－
		172	145	128	169	5,557	8849	－
全数報告	結核	0	0	0	1	1	4	1
	梅毒	1	0	0	0	2	3	6

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	手足口病の流行が見られます。 他、ヘルパンギーナが増加しており、水痘が多数発生しています。
全数把握疾患	結核(80代1名) の届出がありました。

新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して減少しました。 基本的な感染対策を徹底し、感染に注意しましょう。
手足口病	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して増加しました。 ※警報中 県内各地域で報告数が多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。手足口病は、ウイルスの感染によって起こる感染症で、夏季において小児を中心に流行しますが、大人も感染します。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、感染後3～5日で口の中、手足に水疱性の発しんが現れます。予防のため、手洗いを徹底し、タオルの共用を避け、適切に排泄物を処理しましょう。
ヘルパンギーナ	相双、いわき市で報告数が増加しています。 ヘルパンギーナはウイルスの感染によって起こる感染症で、夏季において乳幼児を中心に流行します。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、発熱とともに、喉に痛みと水疱が現れます。予防のため手洗い・うがい等の基本的な感染対策を徹底し、特に発症した乳幼児のおむつを交換した際は手洗いを十分に行いましょう。
レジオネラ症	本県で1例報告がありました。 レジオネラ症は、レジオネラ属菌による感染症で、慢性疾患や加齢等で免疫機能が低下した方や喫煙、大量飲酒者は、肺炎を生じ、重症化するリスクがあります。気温、湿度ともに高い時期に報告が増える傾向にあり、県内では5月下旬より断続的に報告されています。菌が常在する乾燥土壌の土埃や、菌が存在する入浴施設、加湿器等の水場のエアロゾルの吸引による感染が多いので、防塵対策や施設等での菌検査を行いましょう。

お盆休みの帰省等で人の移動や接触の機会が増えることが予想されます。体調管理に留意することや、咳エチケット、手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用をはじめとした基本的な感染対策の徹底をお願いします。

また、お盆休みの間は受診可能な医療機関が少なくなります。福島県では、夜間や休日に急な病気や怪我でどうすれば良いか迷った時に、対処方法や受診可能な医療機関について相談できる相談電話窓口があります。

「#7119」福島県救急電話相談 「#8000」福島県子ども救急ダイヤル にご相談ください。

(参考・引用) 福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第31号